令和８年５月１６日開催　市長と語る！新タウンミーティングの概要

１　日程等
（１）開催日　令和８年５月 16 日（土）午後２時開会（午後３時 35 分閉会）
（２）会　場　ソシオスクエア　会議室
（３）テーマ　市長の基本政策・令和８年度予算について

２　意見交換・質疑応答の概要
市民）
　成田・星宮小学校が統廃合になりまして、旧星宮小学校は災害時の避難校舎となりました。２階３階が避難できます。
　自主防災会という組織ができ、その自主防災会が持っている備品や用品などを星宮小学校跡地の２階、３階に置こうとしたところ、市の方から断られたという話を聞いています。自主防災会の備品をみんなが避難する校舎の２階、３階に置くのがなぜ駄目なのかを知りたいです。
市長）
　自主防災会の倉庫については、各組織が確保した場所に設置し、そこに防災の用品を保管・管理していただくことになっていると思います。まずはその点は御理解いただければと思います。
　施設のその後の利用については、民間や行政としてどのような活用方法があるか、市民の皆さんからも公募を行いながら検討した結果、現在、旧星宮小学校は市の市史編さん室の資料置き場として利用させていただいています。
　なぜそこに自主防災会の備品を置けなかったのかという理由ですが、基本的には、公平性も含めて、別の場所で保管・管理していただくことになっていることを御理解いただきたいと思います。

（危機管理課）自主防災会の倉庫は、組織や地域で設置場所を確保していただいており、集会所や公園の敷地、協力者の土地などと様々です。また、集会所等の空きスペースも使われているようです。

市民）
　統廃合のときのアンケート結果というのは、なんだかポーズだけでしかなかったのかなと思います。特に返答もなかったというのは、寂しかったです。
市長）
　アンケートについては、参考にさせていただきながら、反映できるものについては反映させていただくように努力をさせていただきたいと思います。

市民）
　東部公民館がこれからできるということで、先ほどの市長のお話で、東部公民館は佐谷田・久下・成田・星宮４地区が１か所になるということですが、今ある各公民館はそのまま残るのでしょうか。
　また、その時は有人対応になりますか。既存の各地区の公民館の機能が東部公民館に集中してしまうと、ホールの数などが足りるのか気になります。
市長）
　まず、熊谷市内に７つの大きな母体となる大きな公民館を設置する計画です。東部地区にはその一つを新設し、今ある各地区の公民館については、今後「地域会館」という形で運営していきます。それぞれの地域会館については、これまで通り運営していきますし、今のところ有人対応で考えています。ですので、機能がすべて東部公民館の１か所に集中するということではありません。今後建て替えの際に少し規模が小さくなりますが、今ある公民館は「地域会館」として、これまで通り地域の皆様に御利用いただける環境を整備していきます。

（中央公民館）現計画では、「大きな公民館」は、施設名としては「生涯活動センター」となりますが、施設内に公民館事務室を開設し、生涯学習事業を推進していきます。生涯活動センターと地域会館のいずれにおいても、引き続き、公民館活動（生涯学習活動）は可能です。

市民）
　児童が下校するとき、地区内に防災行政無線で放送を流していますが、旧星宮小学校の周辺ではそのスピーカーの音が聞こえません。統廃合が終わって４年目になりますが、何かが変わったのでしょうか。以前はほんの少しだけ聞こえました。
市長）
　特に変わってはいません。後ほど担当の方に確認をさせます。

（危機管理課）スピーカーの可聴範囲は半径約300ｍであり、スピーカーからの距離のほか、障害物や風向き、住宅の防音性能などにより、全ての地域で聞き取れるようにすることは難しい状況です。
　なお、防災無線の設置を希望する場合は、自治会単位で要望書を市に提出していただき、その要望に応じて市が設置を検討いたします。

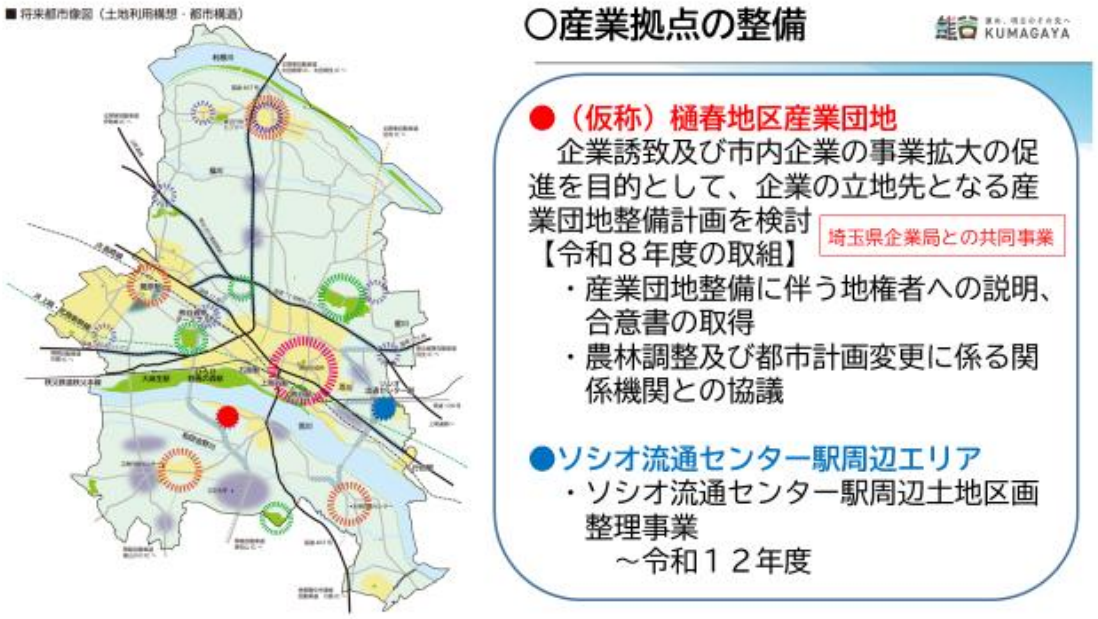
市民）
　旧佐谷田小学校の土地に地域会館を建設中とのことですが、それと、市長がおっしゃる「東部公民館」との関係というのはどうなるのでしょうか。また、最初

の説明では、旧佐谷田小学校の土地の中に体育館のようなものがあって、それを壊してそこにまた何か建物をつくるというようにも聞こえたのですが。
市長）
　中央には中央公民館があり、妻沼地区には妻沼中央公民館、それから荒川南部は南部で１か所、といった形で市内７つの核となる大きな公民館を設置する計画があります。
　それと併せて、今ある各公民館を今度は「地域会館」という形にしていきます。
　公民館も建て替えの時期がどんどん来ておりますので、建て替えをしますが、大きさは少し小さくなります。今回できた佐谷田の地域会館を御覧になったかと思うんですが、かなり小ぶりになったかと思います。
　地域の方にはこの地域会館を使っていただき、大きなもの、東部地区全体で取り組むイベントのようなものについては、核となる大きな公民館で行うということです。
　要は両方とも公民館という名称ではなく、現在建築中のものは「地域会館」という言い方に変わります。そうすると、東部公民館という核となる施設は、時期やどのようなものをつくるかというのは確定ではありませんが、将来的には建物を建てるということになります。

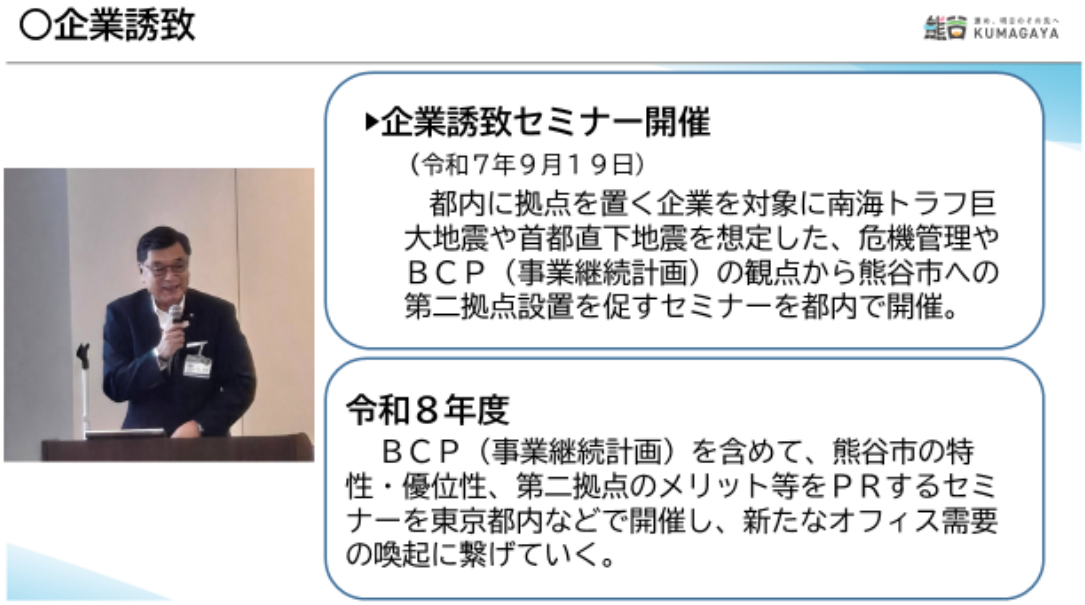
市民）
　市役所が移転するのはほぼ決まっていると思いますが、今の市役所の跡地の利用というのはもう計画があるんでしょうか。
市長）
　まだ決まっていません。まずは新しい施設が完成して引っ越した後の話になりますので、その後にどのように旧庁舎を活用していくかということも含めて、議会の皆さんの御承認をいただきながら進めることになります。
　新しい市役所の庁舎が建ち、ある程度整備の形が見えてきましたら、次の段階として、しっかりと議論をさせていただこうと思っています。

市民）
　学生たちの進路についてです。熊谷市内には、いくつも高校がありますが、彼らが卒業した後の進路、大学などで市外に出て行ってしまったり、このあたりに就職することはあまり多くないのかなと思います。
　そういった子どもたちのための進路をこの地域で何か用意できないものでしょうか。この企業誘致セミナー事業もそうですが、そういった若者が地元で働けるような企業などをこのあたりに用意してあげる計画というのは、何かありますか。

市長）
　今お話があったように、地元で働ける場所がないと人口を増やすことは難しいです。
　現在、埼玉県の企業局と連携して、荒川の南側にある吉岡工業団地の隣接地、江南地区の樋春地内に約 18 ヘクタールの産業団地を整備する計画を進めています。



　また、先ほどお話がありました東京での企業誘致セミナーですが、去年の９月に東京駅直結の会議室を借りて開催したところ、31 社が来てくれました。最近の企業は、東京は首都直下地震があるということで、その備えとして東京以外の第２拠点として、当初は大阪や福岡が選ばれる傾向にありましたが、南海トラフ地震による津波リスクが懸念されるということで、去年の３月頃に企業の方々が悩んでおられたと耳にしました。
　そこで「熊谷には津波がありませんし、富士山の火山灰も降ったとしても影響が少ない」と売り込みに行きました。こうしたセミナーを続けていく中で、熊谷に第２のオフィスを構えようという企業を見つける努力をしています。
　ただ、この間セミナーを行って課題も出ました。31 社の皆さんに「熊谷について何を知っていますか？」と尋ねたところ、「暑いまち」という以外は何も知らず、新幹線が停まることすら知らない方もいました。これでは企業誘致といっても、その選択肢に入りません。ですので、こういったセミナーを今後も継続して「こんなに東京から近いところなんだ」という熊谷の強みを東京都内の企業さんに訴え続けていく予定です。



ただおっしゃるとおり、熊谷だけでなく埼玉県北部は厳しい状況です。大学に行き、会社に就職すると、そのまま熊谷に戻ってこないという現状をどうにかしたいと思っています。外からどうやって人を呼び込み、熊谷に住んでもらうか。これが大きなテーマだと思っています。

市民）

私の出身校である久下小学校が佐谷田小学校と統合するというお話があったかと思います。現在、私は久下１丁目、行田駅の近くに住んでいるのですが、新しい家がどんどん増えており、若い方が引っ越してきていることで、子どもたちの数も増えています。久下小学校の児童数自体もそれほど減っていないかなというところで、久下小学校と佐谷田小学校の統合というお話は現在どうなっているのか教えていただければと思います。

市長）

小学校の統廃合については、現在一旦凍結しています。そもそも久下小学校と佐谷田小学校の統廃合については、当初の計画でも 10 年以上先の話でしたが、計画全体として示されたため、皆さんに御不安や不満を与えてしまったのではないかと感じています。

当初この学校統廃合のアセットマネジメントを考えたのが今から６、７年前のことです。当時は将来的な人口減少を見込んで、初めに星宮小学校・成田小学校、昨年は妻沼の太田小学校・男沼小学校・妻沼南小学校の３校を１つに統合しました。ただ、残念なことにせっかく３校を１つにしたにもかかわらず、５、６

年生は２クラス、１～４年生は１クラスという状況です。そのため、小中学校のあり方そのものから改めて検討し直そうということで、これまでの統廃合について、一旦ストップをかけている状況です。
　ただ残念ながら、ここ数年、増えているとはいえ、久下小学校も着実にお子さんの数は減っていきます。それをどう食い止めるかと同時に、市内でしっかりと教育を受けられる環境をつくらなければならないので、お子さんたちに負担をかけないためにはどうしたらよいかと、今、改めて考え直している最中です。
　少なくとも今お子さんが通われている期間中は久下小学校に通っていただけると思いますので、その点については安心していただければと思います。

市民）
　今の説明を聞くと星宮小学校を統廃合しなくてもよかったんじゃないかなと思ってしまいました。
市長）
　星宮小学校についてですが、もし仮に今も学校が存続していたらどうなっていたかというと複式学級になっていると思われます。学校がなくなることを寂しく思われる気持ちはわかりますが、学ぶお子さんの立場を考えたとき、クラス替えができるような学校にするというのは重要だと考えています。例えばいじめの問題があった際、クラス替えができない環境では、お子さんが学校に通うこと自体が厳しくなってしまうからです。
　そういった意味では、星宮小学校については、統合を行う段階ですでにほとんどの学年の人数が１桁になっておりましたので、やむを得ない判断だったと考えています。その点については、御理解をいただきたいと思います。

市民）
　熊谷市の東部地区である久下、星宮、中条といった地域の活性化について、市長はどのように考えているでしょうか。資料をいただいた限りですと、北部や南部については書いてありますが、星宮地区や中条地区といった農村地域についてはどうでしょうか。今日のお話を聞いていても、上之や佐谷田などのまちなかに接する部分はいいですけども、外れているエリアに住んでいる我々としてはどのように考えればいいのでしょうか。
市長）
　東部地区についてですが、現在道の駅を建設しているのは御存じでしょうか。これも東部地区へ向けたアクションの一つだと思っています。
　また、地域独自の魅力をどう高めていくかということで、現在、利根川新橋の事業が動いています。令和８年には都市計画決定により橋の位置が確定し、そこ

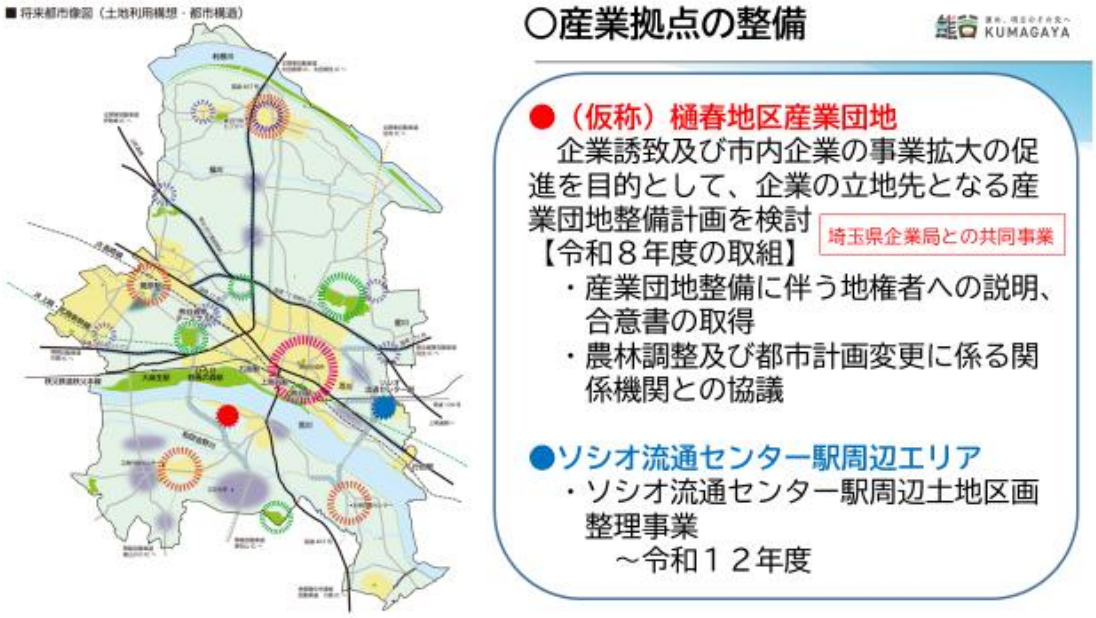
から道路が決まります。今の計画では、利根川新橋から星宮地区を通り、道の駅へと抜けるルートが形成されます。さらには、その通りから熊谷市内へ、足利市、千代田町、邑楽町、大泉町といった栃木や群馬の方々が熊谷へ流入してくる動きも出てくるでしょう。そうした流れの中で、私はしっかりと東部地区に光を当てる取組を進めていきたいと思います。



現在、道の駅は柱が出来てきました。この後、大きな駐車場や調整池などの工事を進めて、令和 10 年３月の完成を予定していますので、もう少々お待ちください。にぎわいをつくっていく方法としてこのような取組も進めています。



他にも、東部地区のソシオ流通センターも大きく変わってきました。２年前に区域区分と用途地域の変更を行い、それまで「市街化調整区域」の農地だった場所を「準工業地域」へ変更しました。以前は流通センター内も土地が歯抜けになり、シャッター街となりつつありましたが、用途が変わったことで新しい施設が建つようになりました。今後はソシオ流通センター駅周辺を中心に区画整理も動き出そうとしています。そう考えると東部地区を中心に熊谷の活性化の動きがあると思っています。



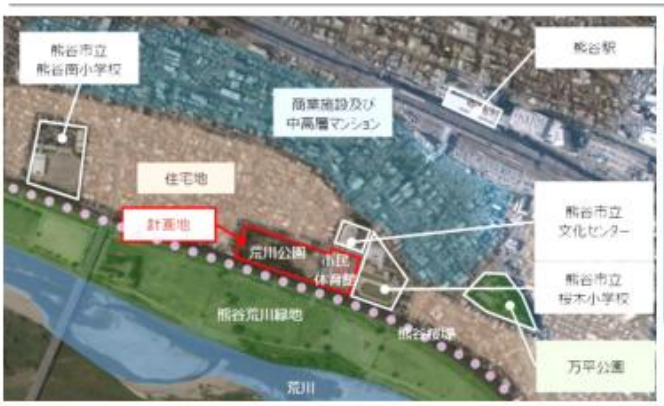
こうした施設が整うことで、地域にお住まいの皆様にとっても、住みやすい地域へと少しずつ変わっていくと思っています。星宮地区のところも時間はかかりますが、計画が動いていることを御理解いただければありがたいと思います。

市民）
この道の駅は地震、水害の際は使えないんですよね。 災害発生時、地震などの災害が起きたときは使えないと聞いていたのですが。
市長）
道の駅については災害時の備蓄倉庫にもなりますので、災害時にも使用する予定になっています。

（危機管理課）（道の駅整備室）道の駅には、道の駅・道路利用者等の一時避難を想定し、防災備蓄倉庫の設置等を行います。

市民）
熊谷駅南口の整備計画について、現状の進捗状況を教えていただきたいと思います。特に、民間資金を活用した体育館の建設計画を含めたプロジェクトに関して、数年前に新聞発表等であったかと思いますが、それ以降の進捗がなかなか見えてこない状況です。期待をしている部分もありますので、現状どうなっているのか教えていただければと思います。
市長）
令和５年９月に市議会へ請願が提出され、令和５年１２月に議会から計画を見直すよう請願が採択されました。現在はコンサルタントを入れ、市民の皆様からの意見聴取やワークショップを実施し、お話を聞いています。

○荒川公園周辺再整備事業



現在、基本計画策定に向け、市民皆さんの意見をいただくため、これまで３回のワークショップを実施し、様々な立場で様々な意見が多数出されました。
これらの実施結果については、紙で発行しているニュースレターや、市ホームページに掲載しています。



ワークショップ
第１回　令和７年　１１月　８日（土）４８人参加
第２回　令和８年　　１月３１日（土）４１人参加
第３回　令和８年　　３月２８日（土）３６人参加

これに関連して、今回、荒川の土手と河川敷の整備について、国土交通省の「かわまちづくり」支援制度に令和７年６月に申請し、同年８月に登録していただきました。国土交通省と連携して、荒川河川敷を再整備する予定です。具体的には、堤防整備とあわせてベンチのように座れる階段状のコンクリート護岸などの整備が行われる予定です。当初の計画では、この再整備と体育館の建設が同じタイミングで完成する予定でした。

○熊谷市荒川かわまちづくり



「熊谷市荒川かわまちづくり」計画の策定、検討を行い、令和７年８月１日、国土交通省の「かわまちづくり」支援制度に登録。

令和８年度～令和１２年度の５年間で、国と市で連携し、階段式護岸等を整備予定。

令和８年度は、熊谷荒川緑地の再整備に向けた詳細設計や社会実験等を行う。

現状、議会での請願の採択を受け計画は一時停止しており、計画見直しの請願の採択から３年後の令和８年度に改めて計画案を提示し、議会の承認を得られれば、基本設計が始まります。当初は令和 10 年度の完成を目指していましたが、そこから少なくとも４年程度の遅れが生じるでしょうか。

ただ、仮に４年遅れるとすると、新しい焼却施設が令和 14 年、新庁舎が令和 15 年に完成予定ですので、そこにもお金がかかります。同じタイミングで 100 億円を超えるものが３つも建ってしまうと、現在、熊谷市は県内でも深谷市と１、２位を争う非常に安定した健全な財政ですが、順番を調整する必要が出てきています。

市民）

熊谷の人口がなかなか増えない、減っているということなんですけど、熊谷は東京から 1 時間半位の通勤圏なので、都心の方から人を連れてくるような大型の住宅開発とか、市内にマンションが建つほうが、人口を増やすための効果としては期待でき、まちの活性化につながると思います。

東であろうと西であろうと、100 戸とか 200 戸という戸建ての住宅を開発する用地があれば、大手のデベロッパーに働きかけをして、そういう形で人口を増やせるようなまちにできないかなと思います。

それに一つは、熊谷市の今の子どもたちの教育レベルとか体力とかをホームページなどで見ると、全国平均よりも県の平均よりも熊谷の子どもたちの方がすごくレベル高いんです。そういう今のような PR にはかなり効果があるのではないかなと感じました。

市長）

今、熊谷市では「スマートエコタウン」というものをつくらせてもらっています。一つは、気象台、くまキッズの近くの小さな土地で、４棟のエコな住宅を建てさせていただきました。ただ、４軒では規模が小さいので、新堀小学校と高崎線の間に、道路付けが悪く耕作をするにも難しい農地があったんです。そこを土地区画整理事業で整備し、約 100 戸の住宅ができることになりました。



また、熊谷市内で既にマンションの計画が４つ動いています。市役所が新庁舎へ動くということもあり、国道 17 号と高崎線の間の土地は、おかげさまで大きく環境が変わるだろうということで、だいぶ積極的な動きがあるようです。そういった動きが少子化に少しでもブレーキをかけてくれる取組になったらと思っています。